

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 28年 12月 25日			
所属学部・研究科	総合科学部/研究科 3年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ラ・トローブ大学 (国名: オーストラリア)			
所属学部・学科等名	交換留学			
在籍身分	学部生			
留学期間	平成 28年 2月 29日 ~ 平成 28年 12月 15日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: Student Visa (subclass 575)			
	ビザ申請先: Australian Government Department of Immigration and Border Protection			
	取得方法, 提出書類: オーストラリア政府のウェブサイトマイアカウントを作り、自分のパスポート、入学許可証(留学先から送られる)、家族構成証明(家族全員分の戸籍謄本をプロの方に依頼して翻訳してもらう)を添付してビザを申請する。			
	手続きに要した日数: 約2週間			
その他必要な事前手続き	オーストラリアは、学生ビザ取得の時に健康保険に強制的に加入させられる。			
出国年月日	平成 28年 2月 14日			
経路	東京→シドニー→メルボルン			
現地での出迎え	<input type="checkbox"/> 有 (大学関係者) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	大学が始まる1週間前に、新入生や新しく来た留学生向けのオリエンテーションやイベントが沢山ある。留学生向けのオリエンテーションはエッセイの書き方や困った時の連絡先、緊急時(救急車の呼び方など)の対応についてレクチャーがある。			
帰国年月日	平成 28年 12月 15日			
経路	ブリスベン→ヌメア→関西国際空港 (帰国前にニューカレドニアに観光したため)			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額		円	
	内訳	渡航費	14万	円
		保険料	6万	円
		教科書代(学費)	2万	円
		宿舍費	7万	円/月
		食費	1万	円/月
		その他 ( 費)		円
( 費)		円		
( 費)		円		
<b>3. 授業について</b>				
年 学期	2月 29日 ~ 6月 24日			

年 学期	7 月 25 日 ~ 11 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	1 セメスター12 週で、試験期間の直前1 週かんに study break と呼ばれる休みがある。 1 科目の比重が広島大学に比べて重く、1 学期あたり 4 科目取得可能科目の上限で、1 科目あたり平均3 時間の講義、チュートリアルなどがある。科目によっては、講義はオンラインでそれぞれが受け、チュートリアルのみ教室で行うものもある。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合、所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	レポートの書き方が決まっていて、文献をたくさん読まなければならないので、スケジュール管理をきちんと行うことが重要になる。また、評価基準を理解しておかなければ、きちんとエッセイを書いたつもりになっていても点はもらえない。
<b>4. 生活等について</b>	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )
住居の広さ	約 m <sup>2</sup>   同居人の有無   <input type="checkbox"/> 有 ( 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ( )
住居費	1 日当たり (現地通貨)   約 2,000 円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )
留学先での住居全般に関するアドバイス	日本で寮というと、安いイメージがあるが、現地の学生は一戸建ての家を借りてシェアハウスしている人が多く、シェアハウスより寮の方が若干高額かもしれない。一方で、寮では毎日掃除は業者の方がしてくれ、光熱費込で洗濯機、乾燥機も無料で使える。寮生限定のイベントが開かれるなどの特典もあるので、値段だけでなく総合的に比較した方がよい。
(2) 医療について	
1 日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )
掛け金は	年間 円 補償額 死亡 円, 入院1 日 円 その他 ( )
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合、その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	風邪などを引いても、すぐに病院には行けない。だいたいどの病院も予約が必要。また、保険に入っていないければ救急車を呼んだ場合かなり高額支払わなければならないので注意が必要。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	夏は気温が40℃の日もあり、大学の国際寮のベッドルームにはクーラーが付いていないで、到着してすぐは気候になれるのが大変。	
(3) 危険を感じた地域、状況		
治安は日本とほとんど同じだが、夜は一人で出歩かない方が良い。 週によっては大麻などの薬物が違法とされていないので、ユースホステルなどで使用している人がいる。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 30年 3月 (当初の卒業予定年月 平成 29年 3月)	
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
現在の状況および今後の予定・進路等	現在就職活動と卒業研究を控えている。	
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫		
<b>6. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等</b>		
書籍、サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		

## 学習の概要に関するレポート

私は主に4年次での留学で、それまでに卒業に必要な単位を取得し終わっていたので、留学先では自分の勉強にはあまり関係がなくても興味を持った科目や、現地でしか学べないことを学んだ。例えば、ラ・トローブ大学は **outdoor education** と呼ばれるコースが有名で、そのコースでは自然との関わり方や、アウトドアレクリエーションの技法、リーダーシップを実際に行いながら学ぶ。ペーパーテストやエッセイの課題だけでなく週末のキャンプや動植物のスケッチなどが評価の対象になることも特色である。他にもオーストラリアの大学で勉強するために必要なスキル、例えばエッセイの書き方やプレゼンテーションの仕方を学ぶ授業や英語教育法を勉強した。本レポートでは、ラ・トローブ大学の授業の構成、評価の方法についてまとめておきたいと思う。

## 授業の構成

授業やコースにもよるが、私が選んだ科目の多くが2時間の講義と1-2時間のチュートリアルで1科目が構成されていた。講義は統一で受講生全員が一つの教室で受けるが、チュートリアルは10人から20人くらいの少人数で受けるので、他の人と違う曜日・時間にチュートリアルが行われることもあった。講義は先生の話や外部の人の話を聞く形式で、スライドを多用した。講義で使われたスライドは全てLMS(Learning Management System)と呼ばれるオンラインページで見直せるようになっているので、講義中は先生の話や生徒の質問など、LMSで見直すことができない情報に集中した。考えながら話す先生が多いので、英語は比較的ゆっくりで聞き取りやすいが、やはり慣れるまでは大変なので、講義を録音し復習に役立てた。一方チュートリアルはディスカッションやディベート、プレゼンテーションがメインである。科目によってはリーディングパッケージと呼ばれる文献を集めた冊子を読んでいかなければならないので、予習にかなりの時間が必要になる。また、チュートリアルの内容が最終的に提出する課題の準備に関係することが多いので、毎回友達や先生に質問して学ぶべきことややるべきことについての誤解がないようにする方がよい。

## 評価の方法

広島大学の評価方法と異なるのは、クリアすべき事項が具体的に定められていて、あらかじめ冊子で共有されていることである。評価はその評価事項に基づいて行われるので、それをクリアしていればそれなりのスコアを得ることはできるし、逆にそれをきちんと読んで何を書かなければいけないのか理解しておかなければ点をもらうことができない。ちなみに、オーストラリアでは文法やスペルなどの基礎的な部分や、参考文献の使い方、参考文献リストの書き方(情報の書き順)などがかなり重視されるので、早めにコツを掴んでおくとういと思う。また、エッセイに関していうと膨大な資料・文献を使うことが求められる。一つの中程度の長さのエッセイを書くのに20ほどの文献を集めなければならないことも珍しくない。私の場合いつも参考文献を探して読むのにほとんどの時間を使っていて、提出2週間前に始めたのにギリギリまで仕上がらないことがあったので、課題は本当に早めに始めた方がよいと思う。大学の図書館や事務棟にスペルチェック、参考文献リストの校正などを行ってくれる人がいるので、利用するとういと思うが、ギリギリに行くと間に合わなくなるので、余裕を持ちたい。

## 生活の概要に関するレポート

私は Bendigo という場所にあるメインではないキャンパスで勉強していたので、メインキャンパスである Bundoora (Melbourne)の生活とは異なるかもしれない。ベンディゴキャンパスはメルボルンから電車で2時間の場所にある、かなり田舎である。キャンパスの裏は広大な山があり、キャンパス内でカンガルーやワラビーを見ることができる。本レポートでは、ベンディゴキャンパスでの生活方法と、ベンディゴに住むメリット・デメリットを書きたいと思う。

### ベンディゴでの生活

ベンディゴキャンパスは駅がある町の中心から徒歩40分、バスで15分くらいのところに位置する。大学の寮もキャンパスの中またはそのすぐ近くにあるので、大学に通うのは徒歩で5分ほどである。また、寮から徒歩7分くらいにショッピングモールがあり、生活に必要なものはほとんどそろっている。一方で24時間営業のお店は全くなく、当然コンビニもないので必要なことは昼間に済ませておかなければならない。近くを走るバスも基本的に午後7時頃が最終便になる。治安は悪くないが、一応夜は一人で出歩かないように大学から言われる。

私が住んでいた寮は国際寮だったが、寮生の約半分はオーストラリア人だったので、オーストラリアの文化やオーストラリア英語を学ぶ場としても十分だと思う。大学の寮ではイベントに参加したり、週末にパーティーを開いたりして、かなり仲良くなれるので、特定のコースに所属しない留学生にとっては貴重な交流の時間にもなる。

### ベンディゴに住むメリット・デメリット

留学前に受けたい授業を選ばなければならず、その授業によって学ぶキャンパスが決まる。違うキャンパスでまたがって授業を受けることができないので、もし受けたい授業が異なるキャンパスで開講されている場合、どちらかを選ばなければならない。「絶対に田舎には行きたくない」という人はメインキャンパスにこだわるのもありと思うが、実際メインキャンパスもメルボルン中心から電車で1時間ほどの場所にあるので、期待して行くのがっかりするかもしれない。一方、私が勉強していたベンディゴキャンパスは、メルボルン中心へのアクセスはあまりよくないが、ショッピングモールがすぐ近くにあり自然も豊かなので、生活上困ることはほとんどないし、手軽にピクニックを楽しむことができる。ベンディゴキャンパスは、メインキャンパスに比べて狭く生徒数も少ないが、留学生の割合が低くオーストラリア人の学生が多いので、真のオーストラリア文化に触れる機会はより多い。町の人にもフレンドリーで、アジア人が少ないので日本から来た留学生というだけでかなり興味を持ってくれ、家に招待してくれたり面白そうなイベントを勧めてくれたりするので、ローカルへの帰属感が大きいのはベンディゴキャンパスだと思う。一方デメリットとしては、大学が開催する国際交流イベントはほとんどがメインキャンパスにいる学生向けなので、ベンディゴキャンパスにいと大学の紹介でホームステイをしたり小旅行に行ったりする機会は減る。また、寮生の多くが休日は実家に帰ってしまうので、留学生の少ないベンディゴキャンパスでは週末は人が少なく寂しい。

